

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護学疾病論
講師名	斎藤 恭子 瀧川 遼 佐藤 美愛	開講年次	2年次 第1学期
単位数(時間)	1単位(15時間)		
授業概要 *講師からのメッセージ			
<p>目的：小児期みられる主な疾患と症状、治療、検査について理解する 目標：1. 小児期の主な内科的疾患と治療について理解する 2. 小児期の主な内科的疾患と治療について理解する</p>			
回	授 業 内 容		
1	1. 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 1) 染色体異常(ダウン症候群 ターナー症候群) 2) 代謝異常(ガスリー含む) 3) 低出生体重児 4) 二分脊椎症 5) 口唇・口蓋裂 6) 鎖肛 7) ヒルシュスプリング病 8) 先天性股関節脱臼 9) 先天性筋性傾頭 10) 腸重積		
2	1. 代謝・内分泌疾患 1) I型糖尿病 2. 腎・泌尿器および生殖器疾患 1) ネフローゼ症候群 2) IgA腎症 3) 水腎症 4) 膀胱尿道逆流現象 5) 急性糸球体腎炎		
3	1. 免疫疾患・アレルギー疾患 1) 気管支喘息 2) 食物アレルギー 2. 感染症(子どもの感染症に関する基礎知識含) 1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) 流行性耳下腺炎 3. 呼吸器疾患(診断の手順含) 1) 肺炎 2) 風邪症候群 3) 気管支炎		
4	1. 循環器疾患 1) 先天性心疾患 2) 乳幼児突然死 3) 川崎病		
5	1. 神経疾患 1) 髄膜炎 2) てんかん 3) 脳性麻痺		
6	1. 血液・造血器疾患 1) 再生不良性貧血 2) 血管性紫斑病(腎炎含む) 3) 血友病 4) 白血病 2. 消化器疾患 1) 胆道閉鎖症		
7	1. 外科的疾患 1) 眼疾患 2) 耳鼻咽喉疾患		
8	終了試験(45分)		
授業方法	講義		
評価方法	筆記試験 100% (内科系疾患 60% + 外科系疾患 40%)		
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目：解剖生理学Ⅰ、Ⅱ、病態生理学(自己免疫疾患)、微生物学、疾病と治療Ⅰ～Ⅷ、小児看護学概論		

科目区分	専門分野	授業科目	小児看護援助論
講師名	平田 洋子(20) 岡田 祥子(10)	開講年次	2年次 第2学期
単位数(時間)	2単位(30時間)		
授業概要 *講師からのメッセージ			
目的:子どもと家族の看護を理解する 目標:1. 疾病の経過と発達段階をふまえた看護を理解する 2. 小児看護特有の看護援助を理解する			
回	授 業 内 容		
1	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護		
2～3	1. 子どもにおける疾病の経過と看護		
4	1. 手術を受ける子どもと家族の看護		
5	1. 子どもに出現しやすい症状と看護		
6	1. 子どもの成長発達に応じた日常生活の援助技術 1) コミュニケーション 2) 遊び 3) フィジカルアセスメント 4) 検査(採尿)、処置(腰椎穿刺)		
7～8	1. 健康障害に応じた経過と看護 1) 慢性期(継続看護・在宅看護) 2) 急性期・周手術期 3) 終末期 4) 災害時		
9～10 【演習】	<p>(小児看護技術)</p> <p>1. 外来受診や入院を必要とする小児の看護</p> <p>1) 外来における子どもと家族への看護</p> <p>①緊急度の把握・トリアージ</p> <p>②病気に対する子どもの理解と説明</p> <p>③プリパレーション</p> <p>④健康診断・育児相談</p> <p>2) 感染症の対応と免疫不全(低下)の対応</p> <p>①隔離の目的・方法</p> <p>②隔離の身体的・心理的影響</p> <p>2. 子どもの入院がきょうだい・家族に及ぼす影響と看護</p> <p>1) 小児の入院環境</p> <p>2) 活動制限が必要な子どもと家族の看護</p>		
11～14 【演習】	1. 子ども(家族含)の疾病の経過と発達段階をふまえた看護の考え方と看護過程 疾患名:川崎病(幼児期) 健康段階:急性期～回復期 薬物療法(輸液管理・内服管理含)		
15	終了試験		
授業方法	講義・演習		
評価方法	筆記試験 100点満点		
テキスト	医学書院:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (参考資料) 医学書院:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論		
備考	既習関連科目:小児看護学概論、生体機能管理技術		